

紀伊國名所圖會

二之卷  
海部郡

服部文庫  
117  
1550  
3





紀伊國久所圖會卷之二目錄

馬松茶屋  
 弥勒山  
 雜々浦  
 雜々浦  
 五羅漢寺  
 鶴立島  
 甲寄  
 芦辺浦  
 毛吹谷  
 今海樓  
 妹背山  
 妹背山  
 妹背山  
 崖の行  
 根上り松  
 雜々山  
 梅邊宿定趾  
 秋葉大獲現  
 芦辺古田趾  
 弁成天杖  
 行架の芦  
 着床ち  
 芦辺茶屋  
 唐門  
 小町峯  
 宗紙松  
 芦辺園池  
 三斷橋  
 瑞門  
 輿洗岩  
 名津院  
 觀石  
 月釣岩  
 矢宮  
 雜々野  
 小江浦  
 龜の宮  
 宗紙瀨  
 雜々城趾  
 妙見半  
 郭公池  
 觀海樓  
 獨坐蟹







高松茶屋



四條大納言院  
岩根彦  
私教松魚  
天慶宮  
浦の初嶋

玉澤神社  
東照宮  
私教浦  
拜殿 唐門 神樂所 樓門  
護持堂 藥師堂 開山堂  
仲實庵  
綱印

玉出島  
大相院  
東照宮御所













去來  
伊豆  
知州  
三石



多田丸  
圓珠院  
伊豆  
三石









彌勒寺山  
東澤山  
甲斐  
布衣  
新井川



山崎

山崎

山崎



松田源三を夫の率右衛門を支宮平吉支藤舟右馬助の共  
勢五音人難が川下紀の川のりやとて小柵逆本をいへて  
あうはを設け桶壺まゝの足をたかきまんとした中の手は原  
見たり半原と東後山のは若くは本孫市谷をたれど乾源  
内を更止外は受伏士を身三那の南の方名の湯士とてさう  
こもる事はわが甲崎の奥の國掃部をまはり四島八郎今丹  
松七渡辺友た衛門の先寄に大舟とてさう共勢五百人  
中手のまはらうをも合を南の山津原をたれど  
こもる上刑殺種を五島右衛門を放言意三并社をたれど  
手勢をたれどい百人弥勒寺山の幸陣に的場源四島を  
とまゆり南のうあめあめとてう馬流とほふけり  
をたれど先をたれど推るを馬一ももさう馬を  
たれどすまあめや平舟とて大原潮をたれどたれど

は堪へてさうくの中はわが一穿の溜りつてさう  
はあつて先せんぐみおさるおさるさう年の下に百五十五騎  
印まきつて討倒し水のさうとて幸寄とてさうとて生元  
はあつてさうの難が川をたれどやうとて勝凱をた  
はあつてさうの軍とてさうとてさうとてさうとてさう  
斯く織田方へのさうとてさうとてさうとてさうとて  
一舟の断滅をたれどさうとてさうとてさうとてさうとて  
勝利をたれどさうとて世運とてさうとてさうとてさうとて  
さうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
差をたれどさうとて馬流とてさうとてさうとてさうとて  
岡戸村をたれど夫の宮の廣をたれどさうとてさうとてさうとて





波の日や  
 鷹は羽に  
 知あ  
 勢別津  
 徐來

おくけり  
 共くや  
 魚十  
 着山

雪玉  
 水のくれ多  
 くるも人  
 れた  
 世の中  
 實隆



難か  
 多る泉  
 儀の  
 教か  
 題釣  
 未週  
 主歸  
 計初  
 縣周

縣周南



とあつてはぬ〜とつてはぬるを倒るるが〜とつてはぬる

相子に後ほほ〜とて雜賀浦へ多づけ毎年四月十七日

東照神皇の御皇孫不供を〜とつてはぬる

親石 わづ浦樹の正統を執るるといふはく若石あり其伴親の歌にさう〜

雜賀野 甲子の初十月辛卯伊国時作歌

九日鹿野由背上本所見奥鳩清波飲余風吹者 山邊宿赤人

雜賀浦 雜賀の庄の正統とす〜と生若石あり其伴親の歌にさう〜

本國之役日鹿の浦爾出見者海人之燈火浪間徒所見 藤原卿

夫本 紅のやまの浦のなつと春の目く〜海士人 頼平

梅溪翁舊宅趾 天和山西のうらたあり梅溪の女と真栄〜とつてはぬる

日釣岩 江倭訓相近故後人訛を無他所稱江浦者父老相傳昔者海水與

小江の浦 江倭訓相近故後人訛を無他所稱江浦者父老相傳昔者海水與

名草濱通入此所 中古壅闕為陸云

正治百 〜とつてはぬる

雜賀崎浦 此地漁戸多し西南の方に壅築する正あり千石の若石あり下不

鷹巢巖 絶壁によう〜隼鷹巢巖〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる

岩間の 〜とつてはぬる





やの宮

やぶ馬の

記録れ

級松葉

若山 其友

駒たも

候や

若山 井枯

若山 井枯

やの宮

御祭九月十三日流港馬ね十時あり

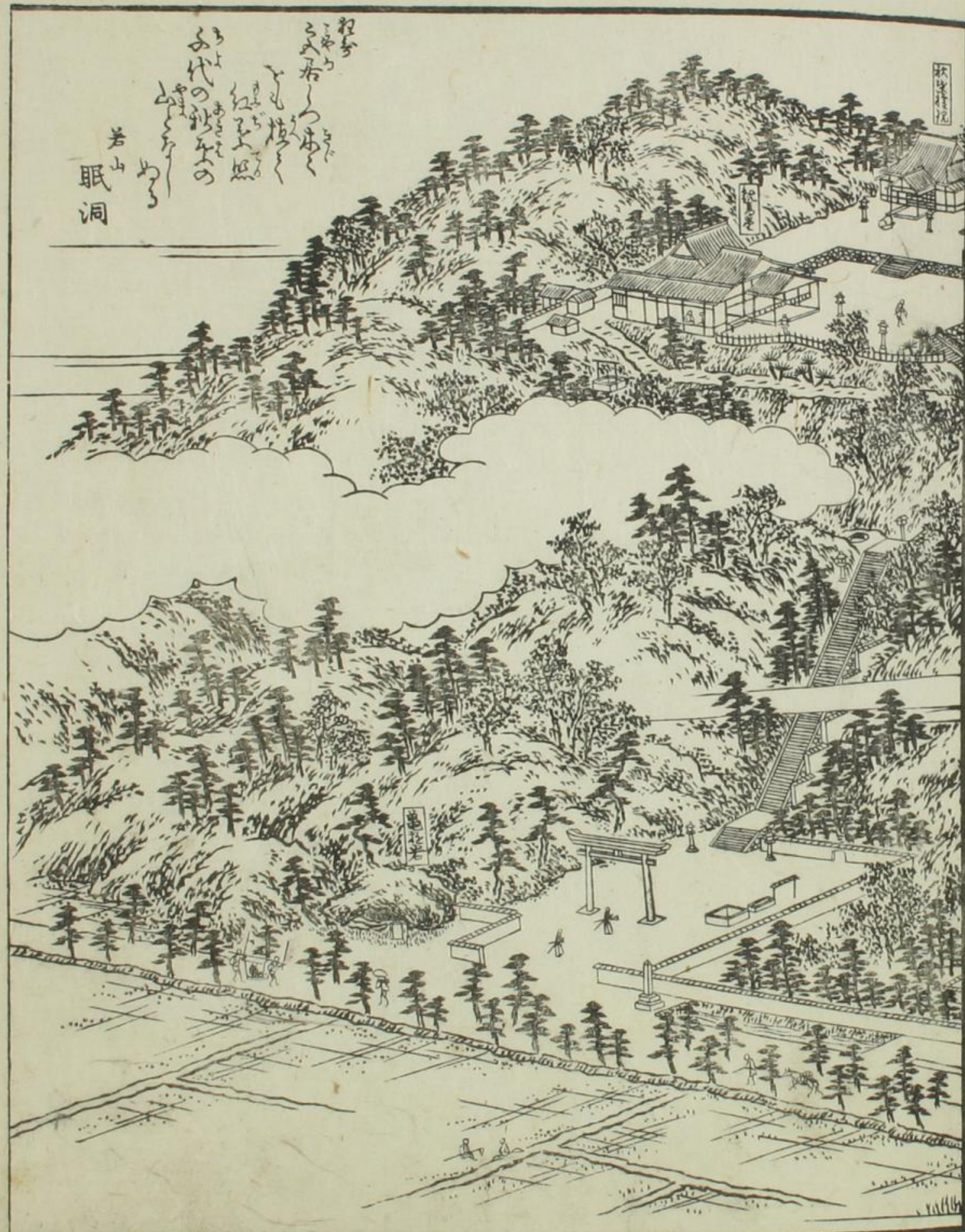
紀神一座武角身命

市門主はたふなむらた思合神合神ありて疑を過むらん  
 つらて教上人と申あふの神はさう果て織田から  
 大坂へ討人とも向ふ新市門はた大坂も歩けぬ  
 日沖流港すたふいたた八年八月二日泉及佐せ川の  
 孫市あるもの伝俱でまきゆわつてもたまひうも免角  
 小織田方よりいそ夜となく兵士とちてなまつす  
 小まを流身も危くいふやと思つていまおれも難か  
 の内よこらぬよもまきさる者あらゆわつたまのむま  
 二一より市門といとくまきりやん  
 流のあふまきりやん  
 花はうとゆへ果てなれ  
 美濃 忍 風



















芦辺寺 法師谷 演光寺のうしろの  
たれをいふ

小町ヶ峯 山崎 辨賊天兵 日赤れあり 高林の妹背山

規の宮 甲斐の川あり 宗徳の寺 宗徳頼 甲斐の川あり 宗徳頼 甲斐の川あり

野田好古尚甫 弱浦標勝境壯觀 天下奇靈獄孕寶符神功極二儀二儀高  
下擊遠眸南吞二峯接十洲激浪噴雪動地軸嵌空雲帆蠻  
船舟指頭淡島青一聚天柱想望幾千秋玉島鐘秀駕蓋蒼  
崑戸松徑彩雲浮春樹長凝仙仗色翠萃消息空悠悠  
神祖宮殿摩蒼天駕雲石燈排星躔昇平久沐至治澤本支  
百世日月懸管公祠廟欽威靈蒼翠深籠古松烟宵時空傳  
褒龍補一時文獻永赫然金剛遙望海樓環洲夕漲擁岸  
遼野樹津亭遠基布存鹵渺接鹽田石橋穹窿卧長虹崖  
統路轉開琳宮松汀鶴唳沙嘴雨葦岸人倚酒旗風龜巖  
石相向背恍望飛閣篋雲中雲中奇觀無端倪臨迄客輿或  
板躋探取刺得十洲趣瓊樓瑤閣耐可採秦皇求仙徒航海  
穆王周遊風四蹄若便海槎得相通神眩空噬當時瞻勝境  
可賦趣可樂胸中山水元領畧山水爭衡來奏奇胸堂為之  
漫磊落壯觀難極奇中 奇幾回欲賦筆相閣

芦辺浦 新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製

新勅 御製 玉葉 價後 新勅 御製



日 浦の浦や... 魚品親王

家集 芦河鶴の... 清輔朝臣

拾玉 わすの浦の... 茂法和尚

月清 若れあ... 後京極抄政大臣

五二 あ... 定家

家集 浦の浦... 家隆

瓊玉 わすの浦... 為家

雪玉 戸河... 宗尊親王

実隆 実隆

守武 守武

槐亭 槐亭

行葉の声 行葉の声

雑貨 雑貨

新千 新千

新後 新後

丈木 丈木

卍庵 卍庵

妹背山養法寺 妹背山養法寺

二天 二天

持心寺 持心寺

大黒天 大黒天

一切経藏 一切経藏

頓阿法師 頓阿法師

高祖大士 高祖大士

源義将 源義将

光俊朝臣 光俊朝臣

俊成女 俊成女

家隆 家隆





松尾住  
 百々  
 春の遊あり  
 大坂  
 野坡  
 雨の日と花と  
 糸梅  
 五法  
 五筑



養珠寺賞  
 養珠寺  
 妙見堂  
 夜來新雨足枝放十  
 分妍夢夕比梨暖條  
 々借柳懸宇林地勝  
 既含醉花昏半但恐  
 暴風夜正逢寒食前  
 祇南海  
 無絲宜春花  
 宜春死裏競妖境移  
 種遙隨南海潮織女  
 機絲天外客仙姬賦  
 線日邊飄樹風白髮  
 三千丈帶雪年楊十  
 萬條曾作東方春  
 色主年年獨立衆  
 芳朝  
 松岳



書院 養徳院 養徳院 養徳院  
林泉 画に依りて林泉と云ふは  
思齊泉 南龍院殿 大徳院殿  
たらしとて心の手向水ひと今にそむ

妙目堂 左三十番神 五番善神  
中央妙目菩薩 右東照神君

牛角石 圓形をなす石の  
道心兼應三年の市造より心性院日をわ人の居をさるり

諸半坊の遠州の市館 養珠院殿の市座市殿

たれ松制市造立市心願あもなつて市遠ののれら  
此地より移したまふ佛殿古代は住居ありて莊院とて止り  
至海樓送函 西のうへに千をなす

登妙目山

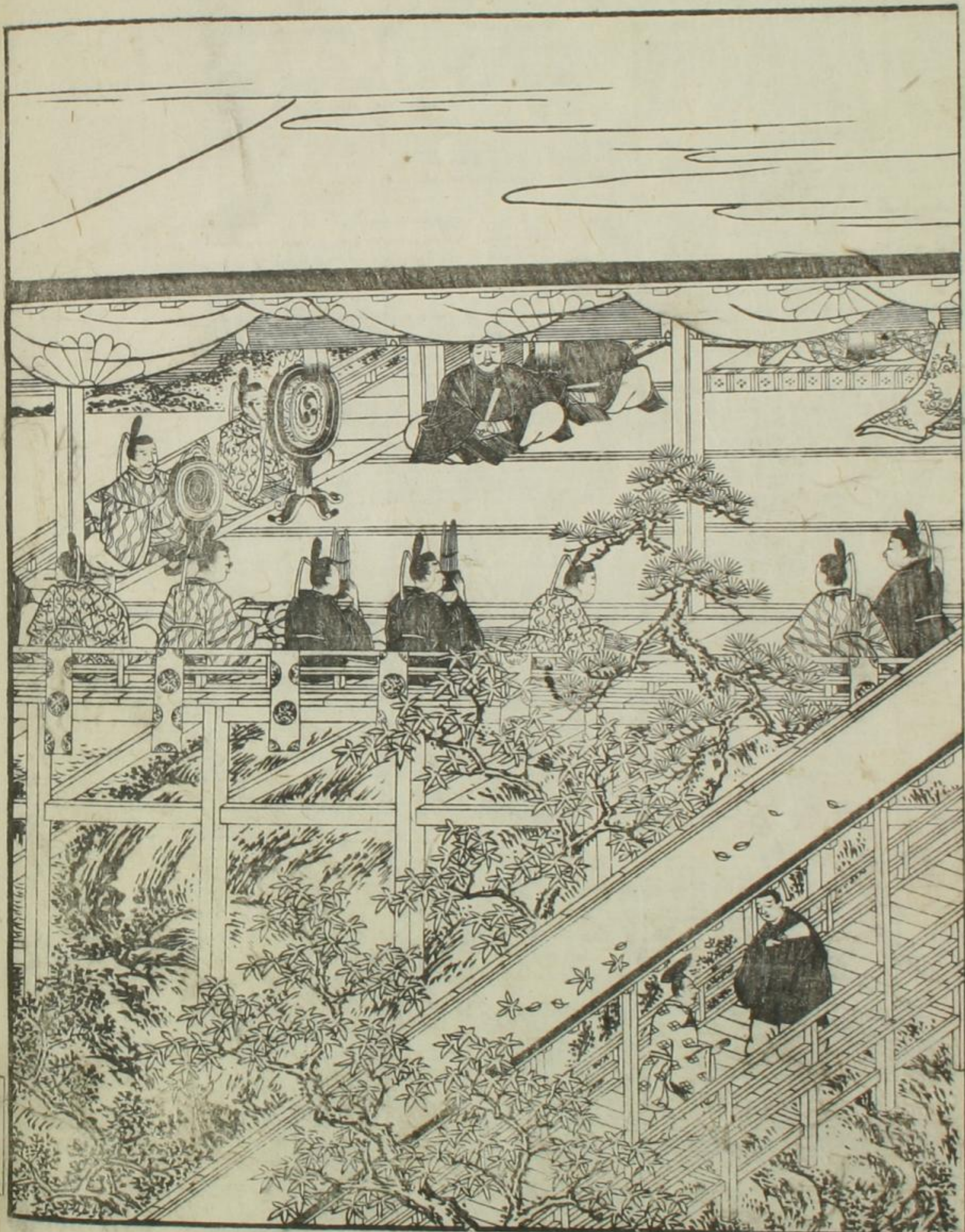
祇南海

望海層樓何處求玉津島北石巖頭翠華不返煙  
伎側沙島雪帆神護秋 秋徳帝神護元年幸光明浦詣

三斷橋 三つ杭が西湖の二橋のわりのありて風景  
されちちりきり花ちりきり  
淡々  
鬼貫



望海樓  
聖武稱德兩帝  
御望海樓奏歌  
舞雜伎























四條  
大納言  
公任卿  
和歌浦  
樹

海士人のけら後らんききりやうりやふけとあやせらん 公任  
あぬのこむいほりやのぬら原の花とあおてよとらん 少将

彼まけをたてとて岩の沖に舟を置きしは月夜 公任  
わがのうらうらうらうらわりのうら

よみへてわがの浦をうらむるは老の原をわがとほり 少将  
はちのうらやのまらる

獨螯蟹

船遊和歌浦奉次次家大人頼  
南嶋樵者

檜嶺蒼蒼古佛檀。入風梵貝度雲端。雨晴海嶽殊明媚。天接  
烟波獨渺漫。離戶花開春晝靜。漁村松瘦夕陽寒。欲尋當日  
行宮處。鼓石騎驕響玉車金。

玉津島神社 日正の 花神明光浦之靈衣通姫を配くまのる



犯神の手洗區くわしやく 俗に傳ふくわしやく  
神樂會かぐらひ 關白殿下の神寄附  
石繁双卷いししげふたまき 正徳四年 靈元上皇神奉納  
神前常夜燈神額成就書 永世同跡  
美應四年 國君より神奉納銘曰  
神龜元年 甲子冬十月五日 幸紀伊國時山部赤人作歌一首

神樂會かぐらひ 關白殿下の神寄附  
寶庫たからぐら 禁裏御所神代市法樂  
神樂會かぐらひ 關白殿下の神寄附

石繁双卷いししげふたまき 正徳四年 靈元上皇神奉納  
神前常夜燈神額成就書 永世同跡  
美應四年 國君より神奉納銘曰  
神龜元年 甲子冬十月五日 幸紀伊國時山部赤人作歌一首

雙卷ふたまき 於戲靈瑞于今干首 貧堅影受 永世同跡  
神龜元年 甲子冬十月五日 幸紀伊國時山部赤人作歌一首

安見お之私朝大王之常宮等仕奉流左日鹿野由背上尔  
所見奥嶋清波激尔風吹者白浪左私伎潮干者玉藻药管  
神代從然尊吉玉津島夜麻

返寄

鳥嶋荒儀之玉藻潮干満伊隱去者所念武香聞

玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

古今 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 人麻呂

後撰 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 小戸

金葉 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 くらね

續後 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 修冠左大臣

續古 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 參議右大臣

同 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 撰政右大臣

續古 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 原隆信

玉葉 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 元内大臣

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日 崇徳院御製







西槐 任事 玉のぬねも極くほふもあつて宿れりしん 榮 雅

千首 若のうらあふれまは玉伴ぬらふんとそとそあふり 宋 雅

耳露 浪すてもまふたそと玉のぬきのほをくつては月影 前右大臣

柏玉 あつちをくみまのゆら百穂のほひもさらけ玉伴ぬ 源朝臣

雪玉 あつちをくみまのゆら百穂のほひもさらけ玉伴ぬ 核柏原院御製

千首 けいひるたをさうらうさかたのふつはまうぬあ 實 隆

日 まい竹根をほむ玉の考神もさうらうさかた 牡丹花

日 すふまてはほまの玉伴ぬ林の誓ひ世にたけま 耕 雲

哥合 世ののちをさる玉はぬらぬくあつちのつるまふ 春宮大夫師兼

良玉 けいひるたをさうらうさかたのふつはまうぬあ 天台座主多

承久 玉伴ぬ入の小松をさうらうさかたのふつはまうぬあ 相 模

家集 まつちのま玉伴ぬはさかたのふつはまうぬあ 少氏於雅有

千首 神もさるたをさうらうさかたのふつはまうぬあ 位 為尹

六帖 朔あつちの月玉伴ぬあつちのまをさうらうさかたのふつはまうぬあ 無 名

當は佛座の本縁日記のほふ微もつたものまは社殿の顔 既み尚一これ萬治年間

國祖君前重相公旧趾の蓋蓋と致つたあふあふた空宮殿 祭奠乃儀式と鳥つたあふらんがたのまは寛文四年

聖護院宮二品法親王のよつち其旨 院所 聖

上皇 敷感ましめて居る林修宜 院所 聖

玉伴島林の奉放牧桑と抄あつちのまは寛文四年

禁裏所より勅使 禁裏所より勅使















務古水門より當田日まふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
まふ地ちまふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
前神の後孫奉まふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
千代二珠の... 取まふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
の神考と撮りて... 國島海平... 詩の... 珠... 被  
二珠... 又... 彼  
干満の二珠とわこ... 横津國... 神... 玉...  
ま...  
新拾... 津守國平

一社 底筒 二社 中筒 三社 表筒 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男命 男命 男命 男命 天照 田霧 表筒男  
三社 底筒男 中筒男 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男 皇后 伊勢 天照 田霧 表筒男  
私記云林名帳曰根津國に吉那に吉座林四座 並名林大月 先師  
説曰林四座者神切皇后坐別殿扱 契中 河社に 是木の説と  
兼考つるに於て吉田社の内一社に於て林切皇后にまふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
一社 底筒 二社 中筒 三社 表筒 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男命 男命 男命 男命 天照 田霧 表筒男  
三社 底筒男 中筒男 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男 皇后 伊勢 天照 田霧 表筒男  
私記云林名帳曰根津國に吉那に吉座林四座 並名林大月 先師  
説曰林四座者神切皇后坐別殿扱 契中 河社に 是木の説と  
兼考つるに於て吉田社の内一社に於て林切皇后にまふもいひもつゝた被靈珠とわこ

一社 底筒 二社 中筒 三社 表筒 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男命 男命 男命 男命 天照 田霧 表筒男  
三社 底筒男 中筒男 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男 皇后 伊勢 天照 田霧 表筒男  
私記云林名帳曰根津國に吉那に吉座林四座 並名林大月 先師  
説曰林四座者神切皇后坐別殿扱 契中 河社に 是木の説と  
兼考つるに於て吉田社の内一社に於て林切皇后にまふもいひもつゝた被靈珠とわこ  
一社 底筒 二社 中筒 三社 表筒 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男命 男命 男命 男命 天照 田霧 表筒男  
三社 底筒男 中筒男 四社 林切 又二説一社 五座 二社 宇佐  
男 皇后 伊勢 天照 田霧 表筒男  
私記云林名帳曰根津國に吉那に吉座林四座 並名林大月 先師  
説曰林四座者神切皇后坐別殿扱 契中 河社に 是木の説と  
兼考つるに於て吉田社の内一社に於て林切皇后にまふもいひもつゝた被靈珠とわこ



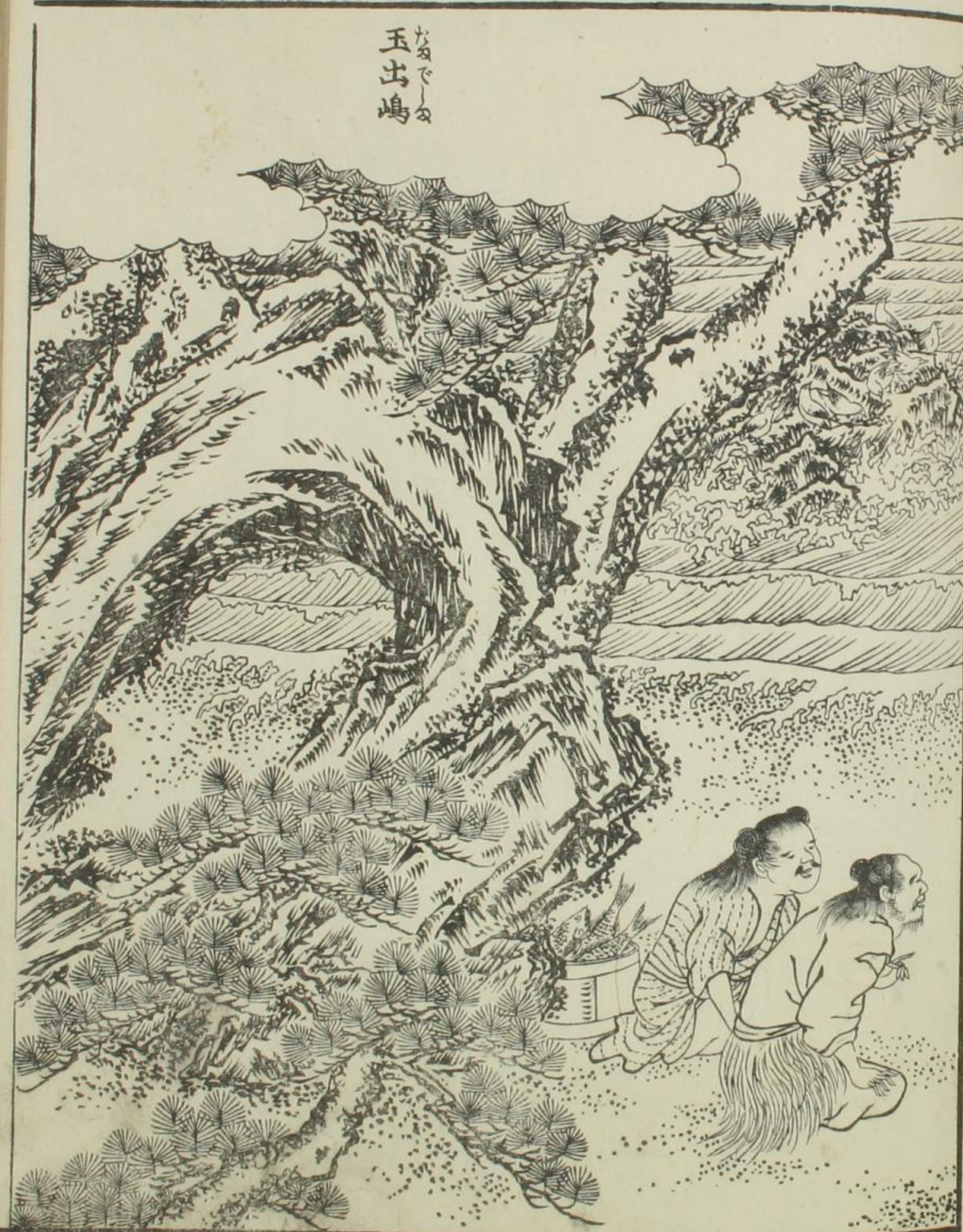








なご  
玉出嶋





村名考の... 大内言世  
... 九月 二報...

わさし... 鴨の... 素因  
... 柳風

日 玉津真祠

林羅山 道春

百世外蹤何處尋。明光浦畔古宮深。芳村若  
報蜘蛛喜網住。乞茶天子心。

日 洞玉津嶋

江 卯 綬 北海

江山一望画图中。勝地相連趣不同。白石參差雲  
海寺。青松掩映玉津宮。鶴飛蘆渚潮初至。龜曝  
苔岩路自通。以有扁舟堪載酒。探奇何用限西東。

玉津岩根のときき

家集

玉津岩根のすなわふま... 源兼昌  
玉津岩根のときき... 一條内府公

狂秋  
... 其 角  
... 吟 水



名月やうらなわわのうらなまらぬ  
素門 道  
素 道

藻屑にもしのほろいあま玉津しぬ  
堀 専

玉出寫

後花山院入道  
大上 天皇

後西院入道  
大上 天皇

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道

入道大政大臣  
後西院入道







妹脊山台取圖

潮痕幾

人上採

磯間毛

比土之

奇産物

専妹皆

稀

養志



林泉凡を幽雅うつくしき後山に海標の遺跡ありてを南ふ  
しつゝあまのしほ風を立ちざく千代に聳へ方丈の書院よ蓋  
後よりうたはしむ藤鉄藤共余奇樹怪石のうたはしむ  
ねんまじり絶頂のつらみよ木の根岩とんすりり眺  
おとどろく不月つらみねまゆるくく遊行を生る

和歌松原

天保のつらみより玉伴の廻まを松林にありしを  
東後宮を居りし古  
松ありしを松林と云ふ松林を居りしを  
つらみありしを松林と云ふ松林を居りしを

雪玉 夕多の春を塩子に静かて霞をまきたねを乃松原 中務のみと

西隈 凡ありしを松原と云ふ松原を居りしを 栄 雅

相玉 塩子松原のつらみよ松原を居りしを 後相原院

雪玉 雪玉ありしを松原と云ふ松原を居りしを 塩

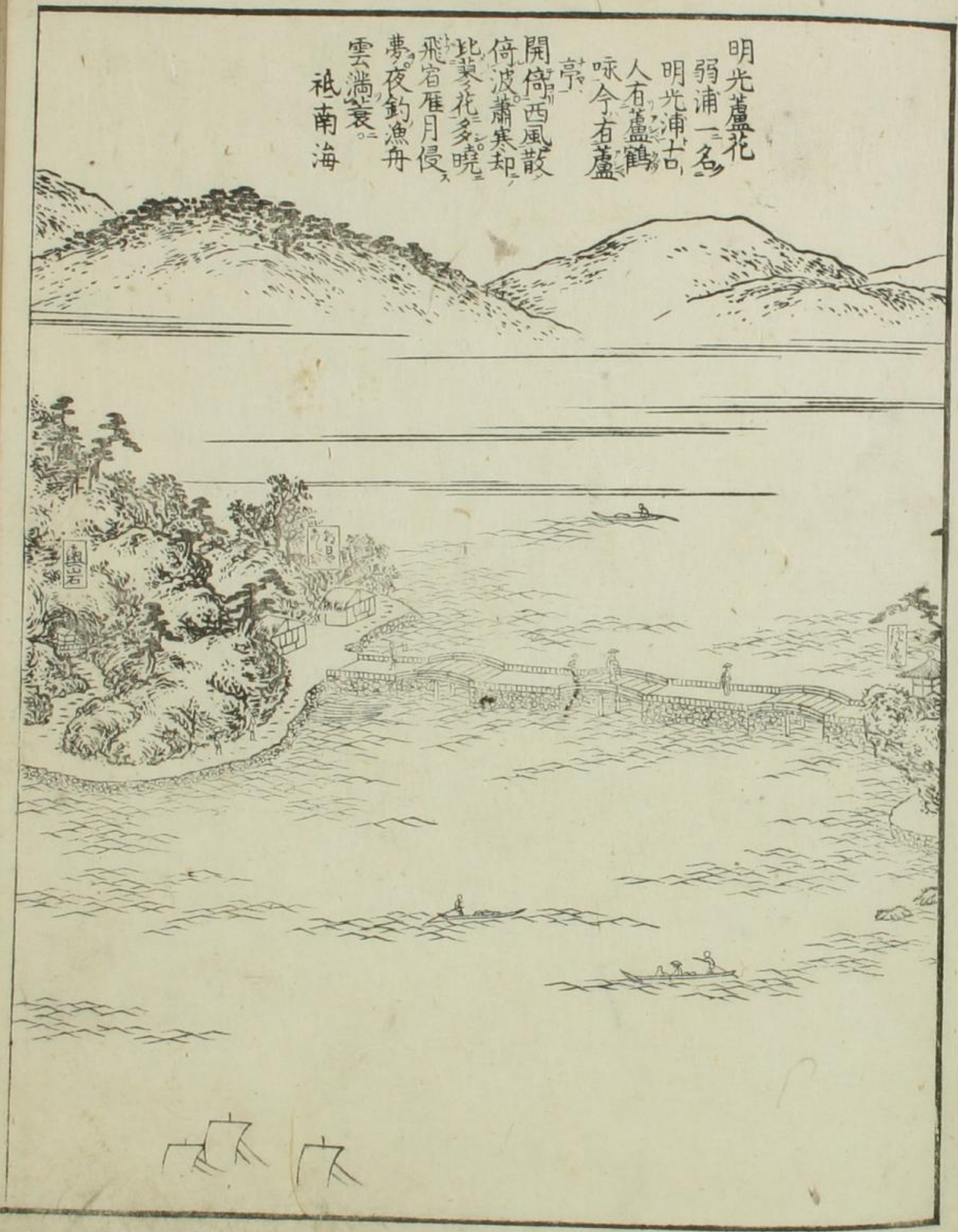


妹背山  
多寶塔  
觀海樓  
三斷橋  
芦邊茶屋

子親  
江上追逸  
住客船子  
規啼盡暮  
春天聲聲  
一夜催雙  
淚回首鄉  
雲落月邊  
大江資衡

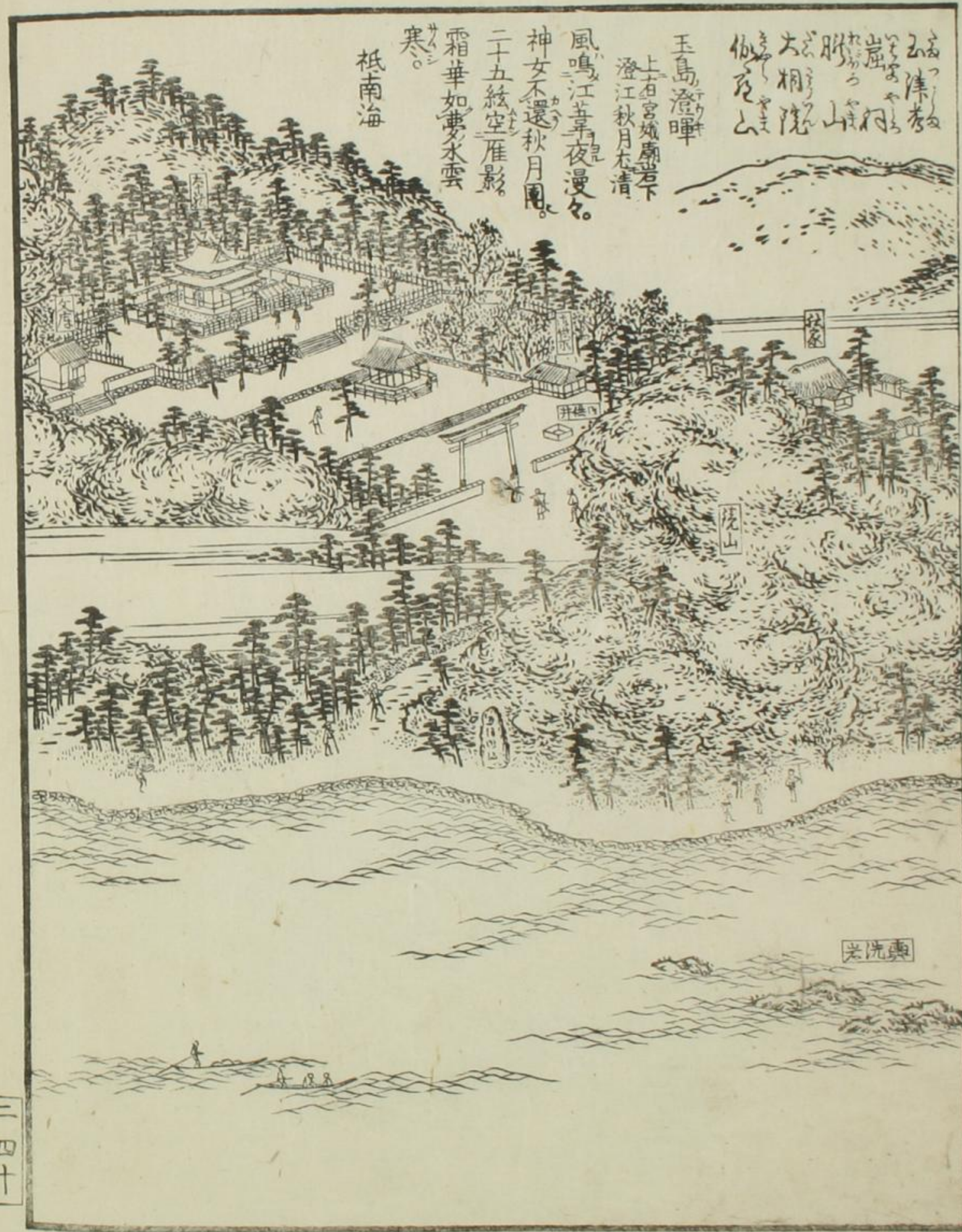


明光蘆花  
弱浦一名  
明光浦古  
人有蘆鶴  
咏今有蘆  
亭  
開倚西風散  
倚波蕭寒却  
北夢花多曉  
飛宿雁月侵  
夢夜釣漁舟  
雲滿衰  
祇南海

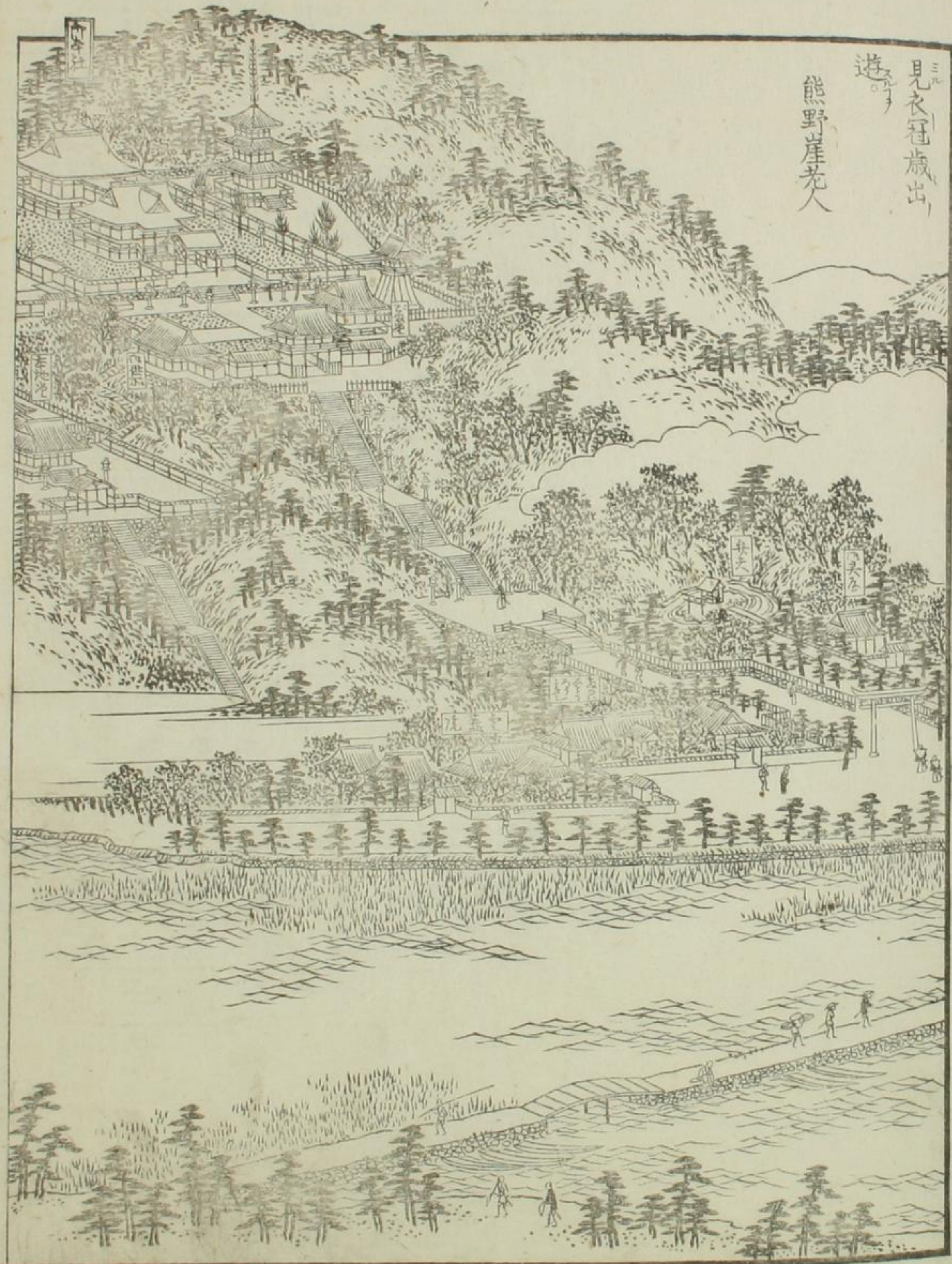


三十九

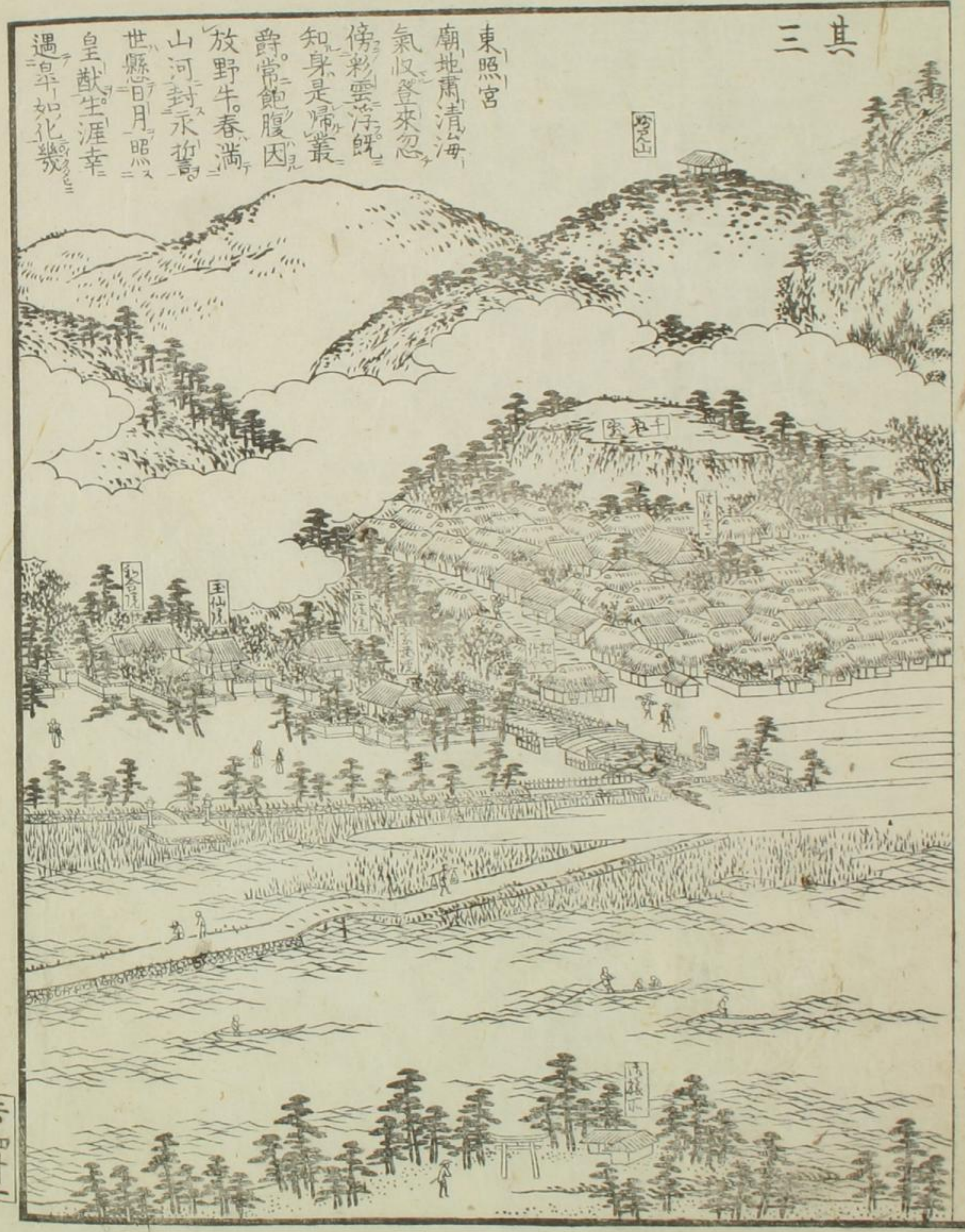








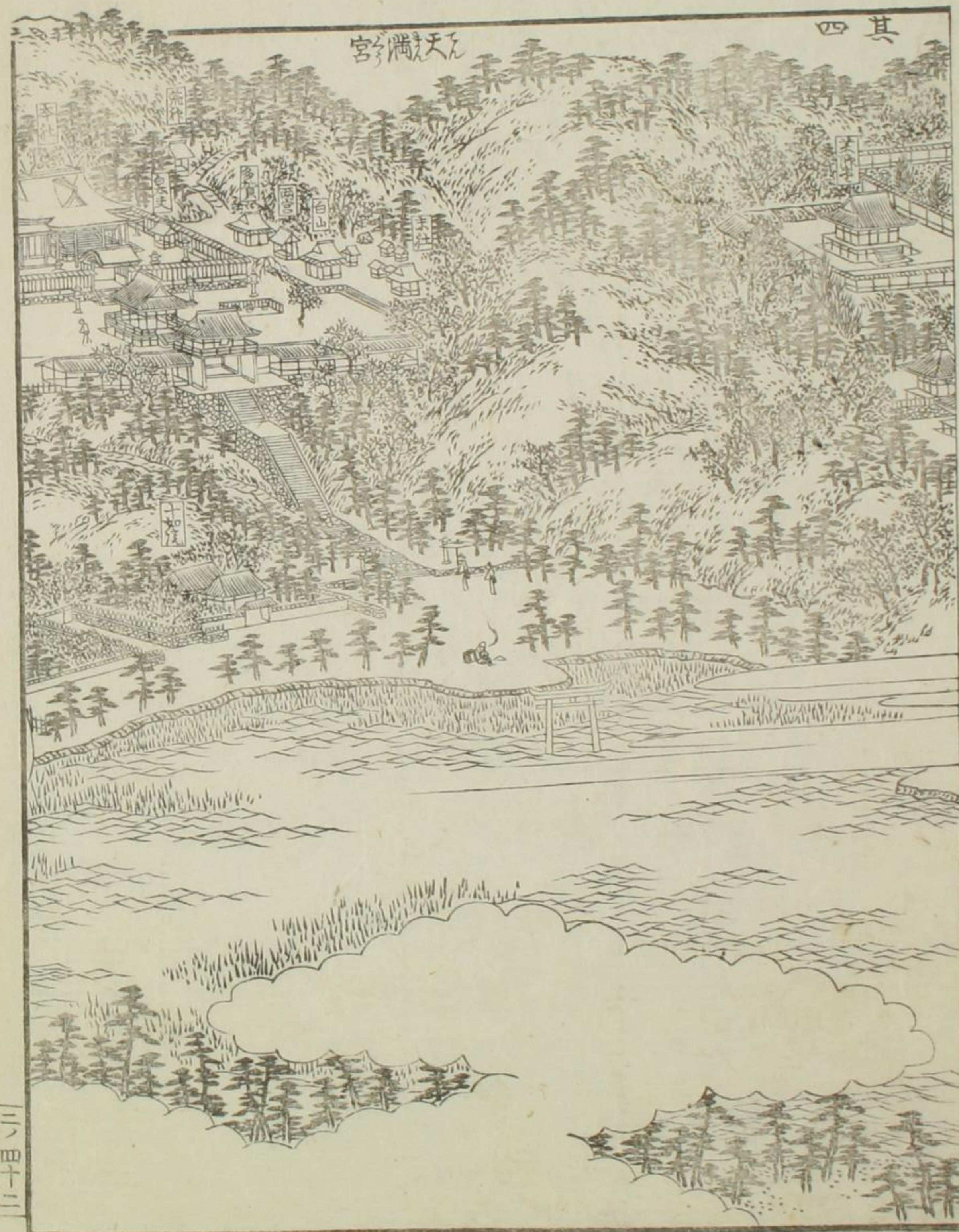
見衣冠歲出  
遊  
熊野崖老人



其三

東照宮  
廟地肅清海  
氣收登來忽  
傍彩雲浮既  
知身是歸叢  
爵常飽腹因  
放野牛春滿  
山河封永誓  
世懸日月照  
皇猷生涯幸  
遇旱如化幾





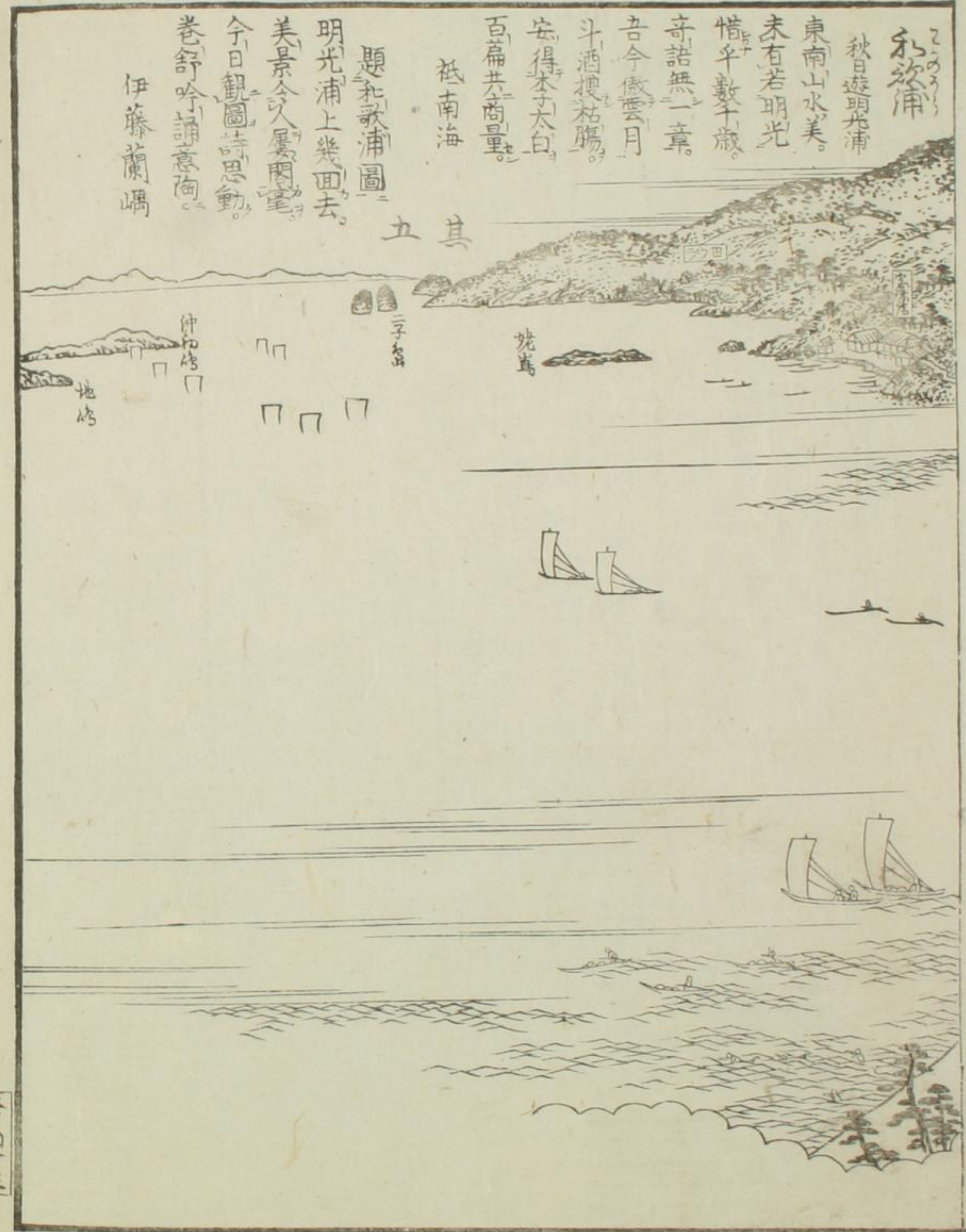


私汝浦

秋自遊頭光浦  
東南山水美  
未有若明光  
惜乎數千歲  
奇語無一章  
吾今傲雲月  
斗酒搜枯腸  
安得奉大白  
百篇共商量  
抵南海

題私汝浦圖

明光浦上幾回去  
美景令人屢回室  
今日觀圖詩思動  
卷舒吟誦意陶然  
伊藤蘭嶼



分合

松原田鶴乃あり塩子あり立瀬あり  
入道元大尾

雪ふりわりの松原埋まき塩子丸内丸の如きと  
雅永朝臣

和汝御宮

和汝御宮 座三東照大権現 日吉山王権現 摩訶羅神

奉宮奉拜御神 座三東照大権現 日吉山王権現 摩訶羅神

拜殿 鯉口三ノ口 唐門 本宮のちあり松をくわの元本と

林生所 唐門の照あり松のちあり松をくわの元本と

三重浮圖塔 本宮の西あり半殿あり本宮の西あり

薬師堂 本宮の西あり半殿あり本宮の西あり

岡山堂 本宮の西あり半殿あり本宮の西あり

御橋 打欄擬宝珠ありこの下は国日光山神内あり

下馬橋 本橋あり下馬橋あり

石香表 銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆

石香表 銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆

石香表 銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆



當 御宮の元祿二年庚申の歳に御造宮なりて比叡山大宮に茲  
 眼大師の岡山より御幸地に薬師瑠璃光如来さまより相殿に  
 摩訶羅神おまじ日光山王権現さまなるひこねさま  
 東照三宮を稱し奉まうを恩もつこも 神君御在世の御事  
 今も追ふと思ひなまらふ天文龜の間に天下接れし武將兵人  
 れをいじり織田豊臣の両將軍をむむり後まつていせ事小  
 屬にとももまは武の偏りし文は疎くきよき巻の端の  
 ことあらば未後終りぬきまの御まはるるひれま  
 むと母にあらはれし  
 神君勃然とて起りてあつては我長くは元徳と平げぬ  
 干戈の霜の如陽は消し長は底草の常と春風は靡せぬ  
 なく六塵淵よりあはる紅梅のゆきび枝葉に揮くごとく  
 御徳ハ 御神号にもいちごとく

沖影のてしまるる深のやまの 沖代くは宮の柳ごとく  
 龜の尾の條の色とあつては影の鬘髪をともつごとく 威徳と  
 後まつるとね莫きの 恩にまらふあはれや 沖宮の結構に  
 中も思多れも麓より山上ありて石築方ちよとるひ  
 朱の玉垣を深く林密の積翠を映著して一辰の虫迹を暖  
 神威のつらう巖を共まらぬふの靈地より寶殿の山上建て  
 三葉四葉の昔々一美と一輪魚とく 漁人の眼をい  
 奪へぬ赤の桜花に三光の山よりうつり本々笑まのまきと  
 きちせを衣と傍らね樹のわきね原のひらきをのじてみ秋の  
 翠色やとぬ

御祭礼の事

毎月十七日 樂松考る九月十七日沖山のよりく度小終はく相撲あり  
 外中祭中四月十七日の沖をいひ自餘の式はり来りりり沖山の



ゆきとよし御縁所まぎく様をを多ちうへ誠な誰とよるの地も  
ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也  
るんやちく雑皆らあつたあまはひちや

御神輿の渡幸の由日辰の上刻に御神旅所を道末と  
奉りて御縁所まぎく様をを多ちうへ誠な誰とよるの地も  
ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也

○長方振あり ○赤母衣七人 白母衣 五人 拍子鉦 五人

○連尺五人 ○棒振三人 ○太鼓二人 ○拍子鉦 五人

○笛三人 ○蛸吹三人 ○流拍四人 ○雜入踊 五十人

此は御神輿の口牌に記されし御神旅の御縁所まぎく様をを多ちうへ誠な誰とよるの地も  
ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也

○唐船 二十九人 ○笠陣 八人 ○餅搗踊 五人 烏帽子 五人 旗 五人

○手合 二人 ○餅 二人 ○太鼓 二人 ○流拍 二人 ○蛸吹 二人

○夫解の事 御神代の御縁所まぎく様をを多ちうへ誠な誰とよるの地も

ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也

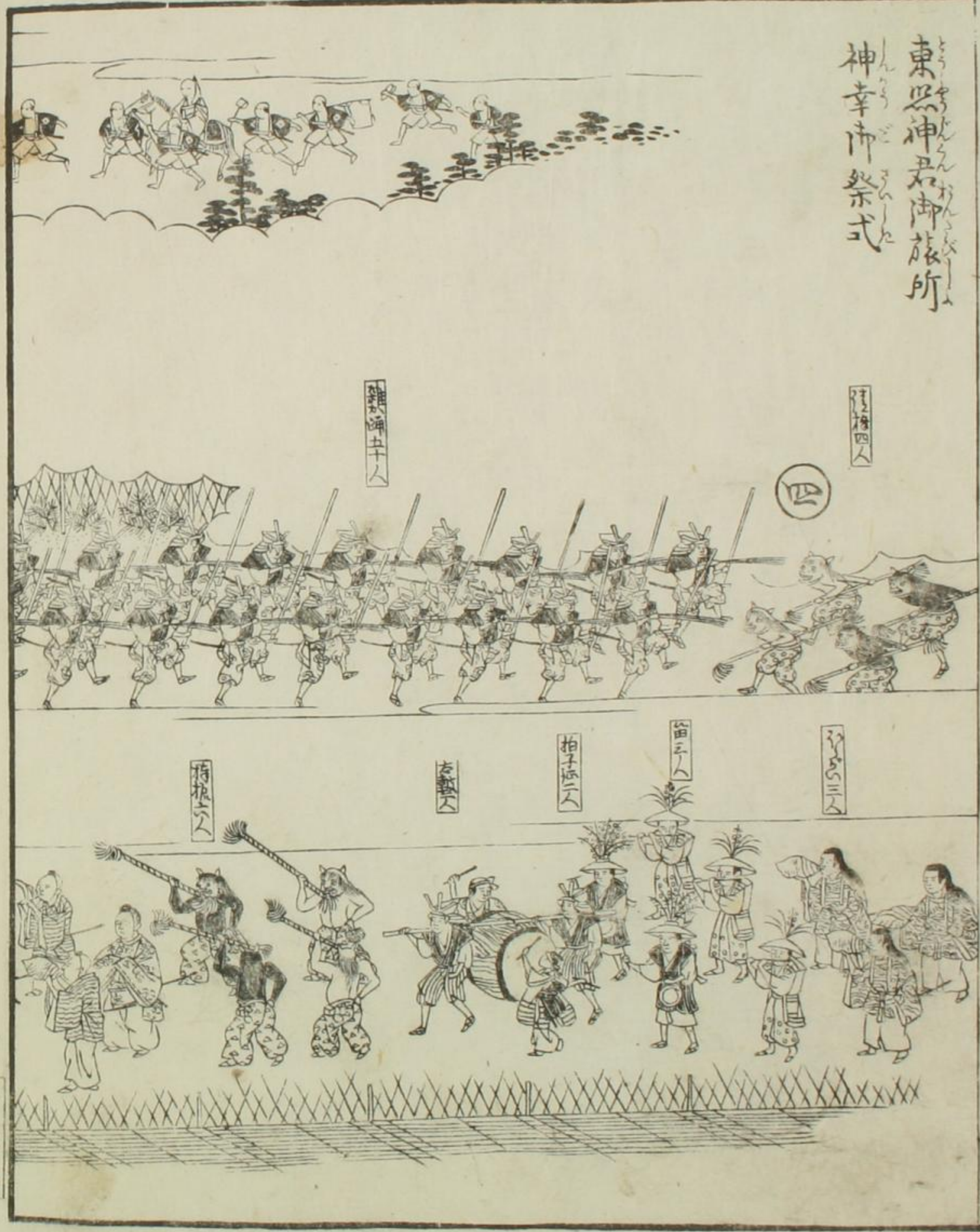
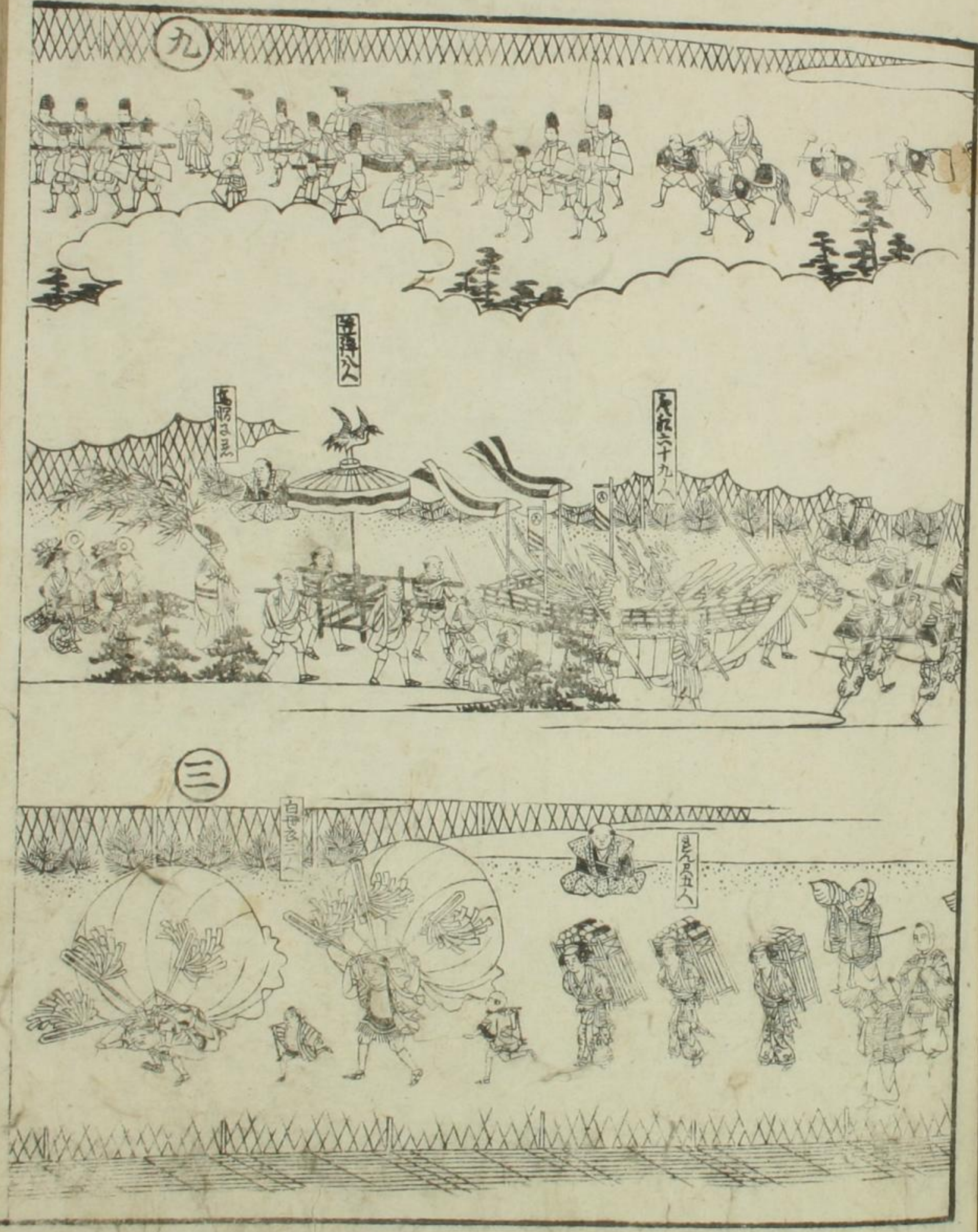
ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也

ちく都鄙の老弱袖はほねく惟はは裳さうへく幕也

因曰

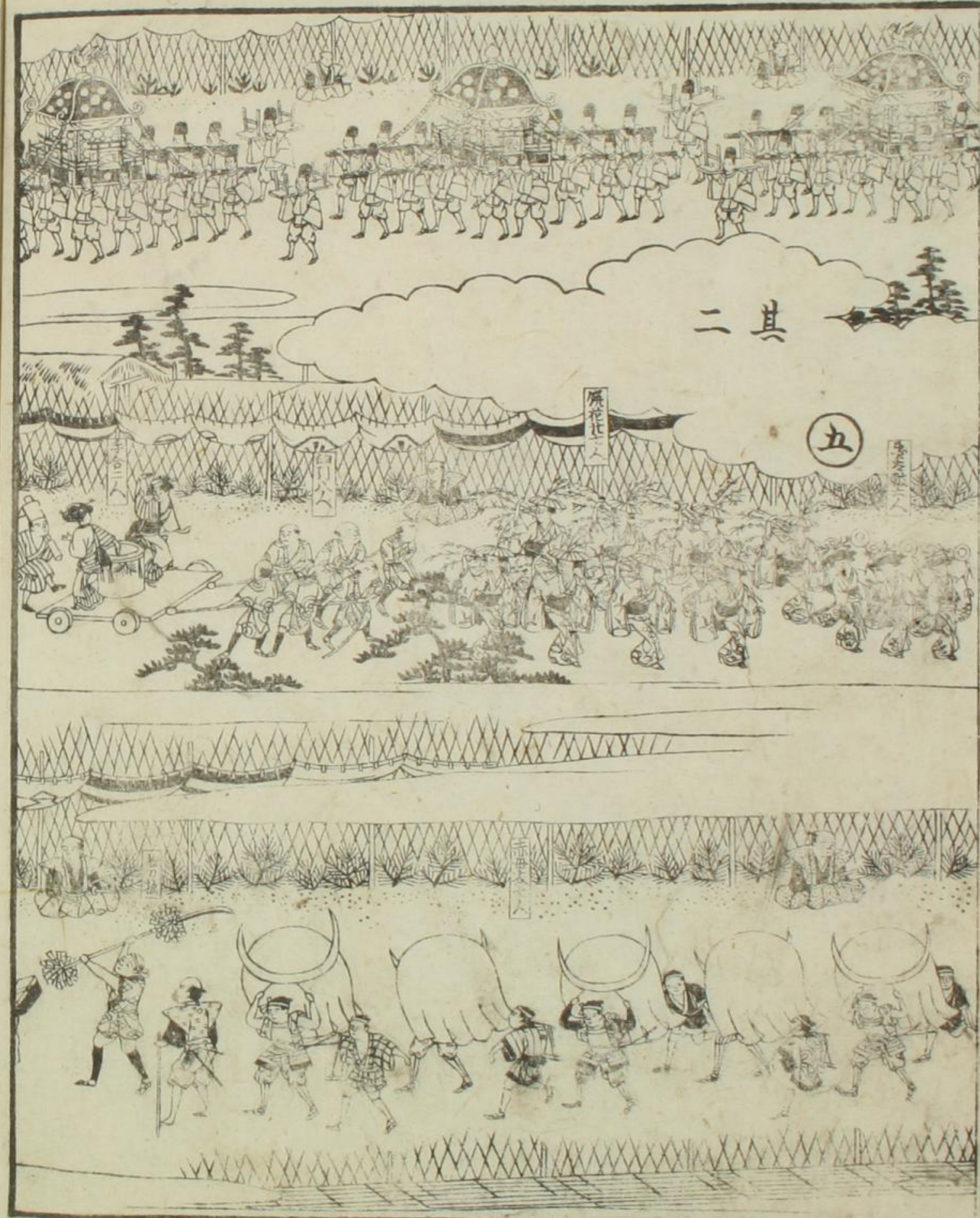
其書と云一新一二の御手をくらへこと公再身は廣瀬八丁町  
より御縁所まぎく様をを多ちうへ誠な誰とよるの地も



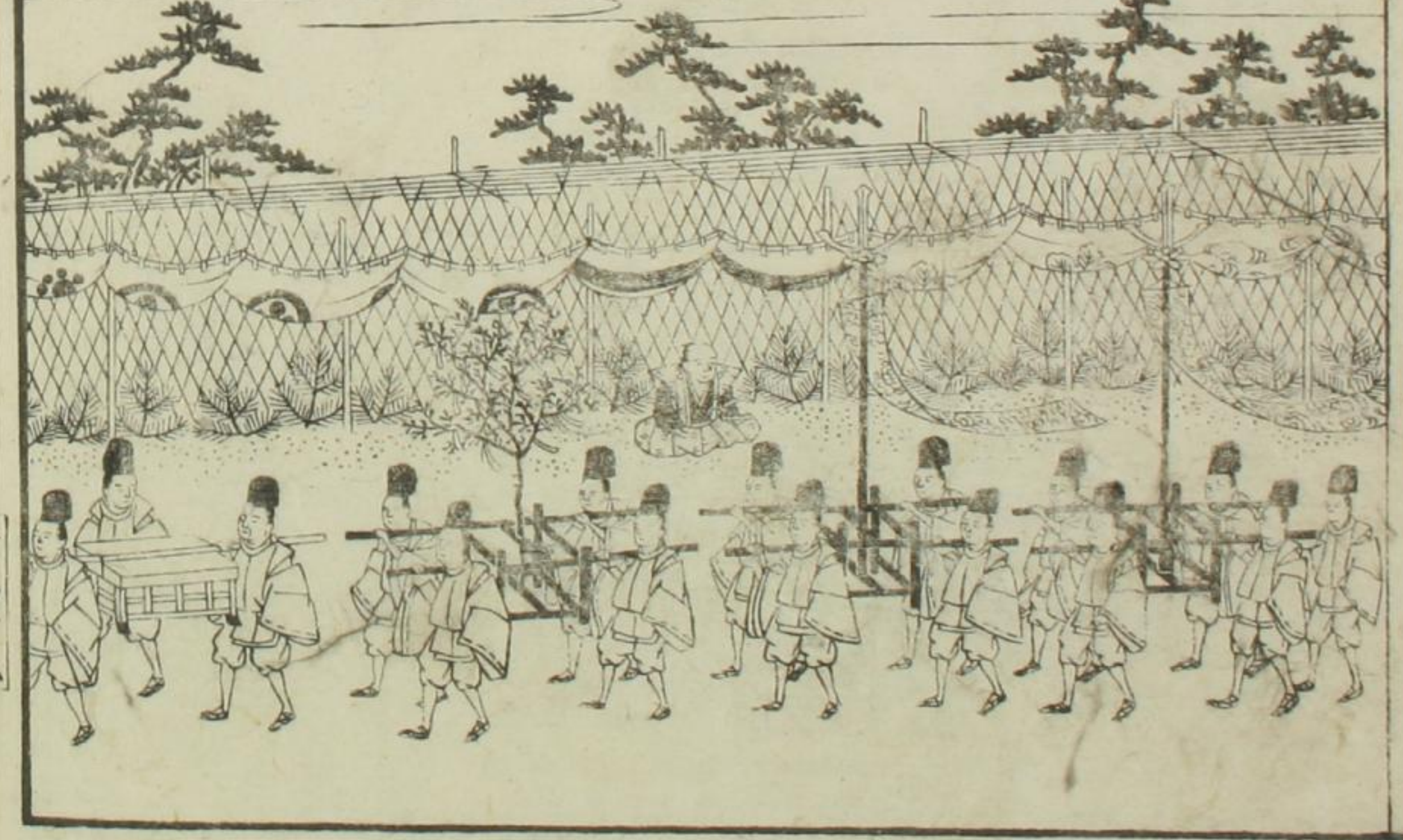
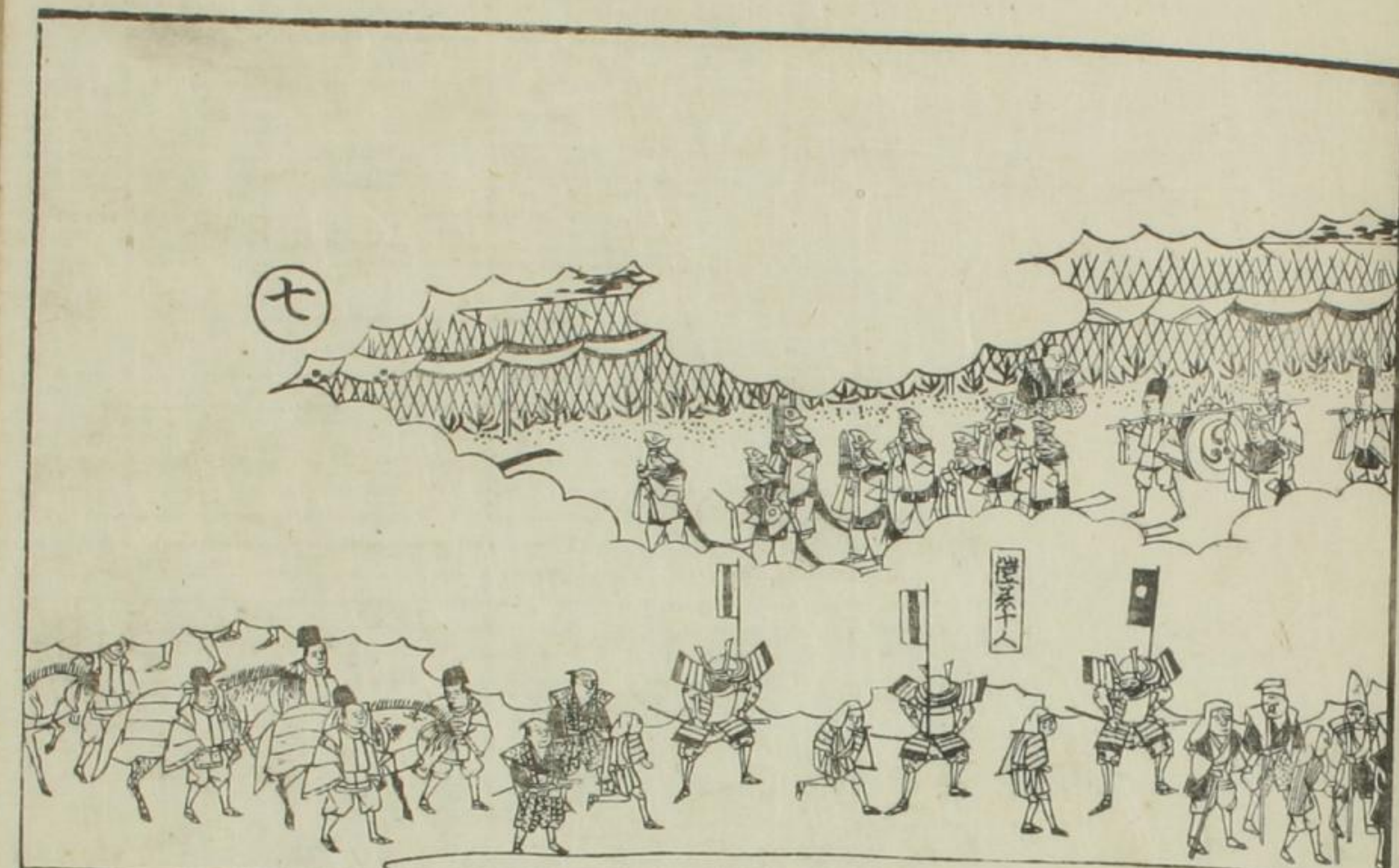


三八五

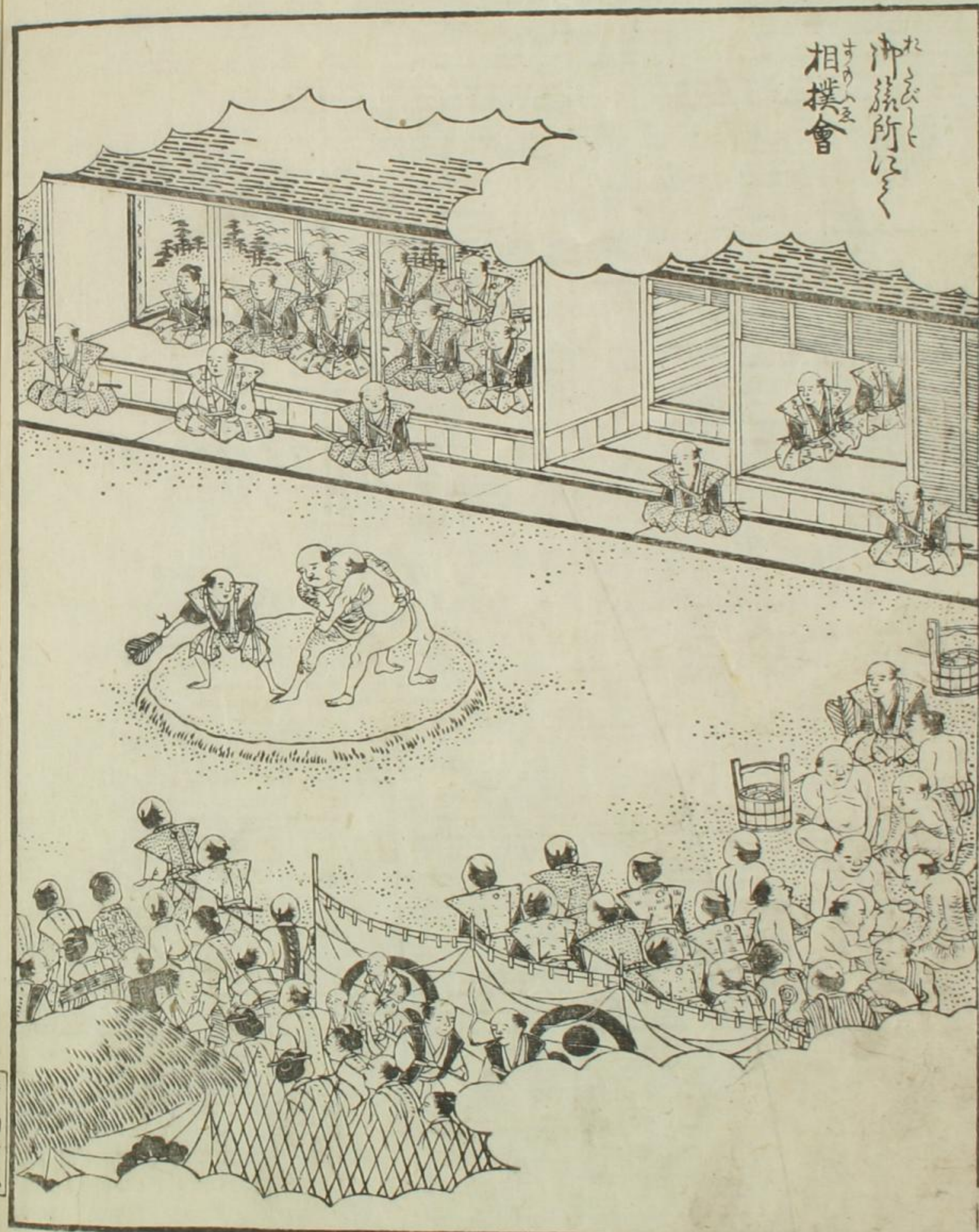






























玉葉  
 中臣祐信  
 津守經國  
 平貞俊  
 藤原景綱  
 藤原忠定  
 法皇御製  
 平貞直  
 源高氏  
 藤原範秀  
 大江高廣  
 侍從隆教  
 前中納言定資  
 丹波忠守朝臣

凡雅  
 紀行者

後花園方をきくは濱崎の浦の...  
 皇太后を奉養する千載集...  
 藻塩州の集るわが浦の...  
 前左兵衛守雅方

今日...  
 俊成

今...  
 平久時

後...  
 後徳を左大臣

後...  
 及原隆信朝臣

後...  
 頼政  
 源宗氏  
 及原隆信











新續 北条の浦はくろ代あつや道の終はしり

堀川 口の浦の千代なふちの終はあまなるべし

夫木 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

口 口はくろ代もあまなるべし

夫木 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

六百 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

林業 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

家集 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし

日 ねむれくろ代も朝鳥のひまもあまなるべし



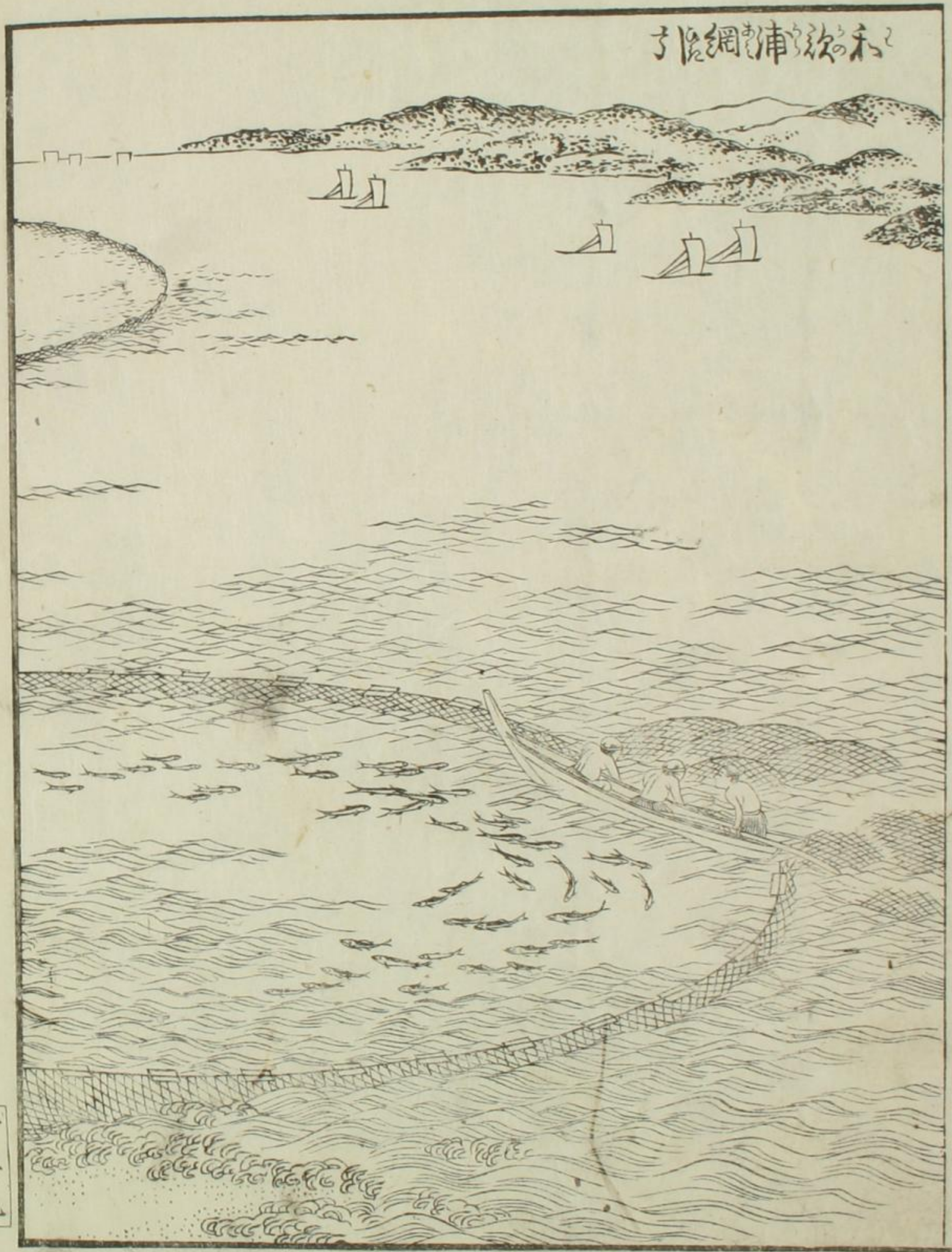




乘興一篇船相尋  
 和浦邊姬歌波  
 點雲鮫泣雨如  
 烟沙岫饑鷗印  
 苔磯釣客眠南  
 溟殊不遠九萬  
 夕陽前  
 熊野老人



和歌浦網子













高浦の杖桑にわくくさる勝地に〜古今の詠歌に  
 美人の首瓜程きりや東西に餘町あり〜濱生る色濃  
 おくの田鶴は間つちら〜洋たりあふはのさゆ  
 令刑實寺のひれ多し悠揚〜て月入るくさるさへ  
 東浦の生るさへ〜夜白し押板翠密〜く  
 さいへ横たつたる浦塩津浦のみ〜跡〜西海に海  
 四國の高松あり〜い國東より出船入船あり〜商客乃  
 軒瓦は〜も鮮くえり〜西南の雲海漫〜く  
 大鵬九萬里に羽をお付あり〜れ初寫あり〜みろ光  
 ころり〜千尋の底ふあら〜ら海士遊び志のあみ世を  
 ころ業く〜も〜く〜ば〜長き〜さ〜ら〜は〜地か  
 の山〜岩根の青い緑〜さ〜ら〜く〜む〜は〜風〜吹〜た〜ら〜れ  
 圧曲ちる其景色空窈窕〜〜〜二十の美人紅粉と粧ひて

一度に〜誠と杖桑に寺の勝地〜

紹述文集

實永巳丑之歲八月九日。周觀府城樓堞崇麗。民物富庶。南  
 海之一都會也。自府城西南行一里計而有裏海。有小嶋。倚  
 巖上。有亭。子。可以觀海。接日。殊背山。遂詣玉津嶋。祠而觀。和  
 歌浦。浦。廻。十餘里。西面稍南。長岡連阜。左右環擁。地。嶋。澳。嶋。  
 時。千。南。姥。島。雜。賀。崎。突。乎。兆。一。碧。萬。頃。斤。帆。如。梭。風。水。相。遇。  
 銀。濤。噴。雪。勢。如。萬。馬。蹴。浪。海。南。壯。觀。極。於。此。矣。近。村。有。亭。生  
 齊。酒。者。而。供。客。玩。而。共。步。退。灘。地。浪。花。趁。人。珍。貝。魚。螺。蝶。山  
 之類最多。旋探而懷之。遂上管神祠拜。東照宮而歸。云云

東照宮御旅所

日取の御旅所あり。毎歲卯月十七日

浦の初寫

浦の初寫の地あり。村の沖にあり。傳のむに同念あり

續括

みるに浪はさるるありなり霞のまきた浦の初々

日

いづる浦の初々ありあり霞のまきた浦の初々

新續

紅の海客の及間のま〜く〜る浦のま〜

日

白く塩漬の浪のま〜く〜下流に流るるの初々

支本

浪のま〜く〜下流に流るるの初々

寺登舟入道  
 大仙言里光  
 称名院入道  
 因大  
 桂傍心と朝



家集

柏玉

雪玉

白川

川に袖のりて源をたづねて初ぬ  
 又ふたはまきと霞い流し小船初ゆり春のうた  
 雪玉は雪の初ゆり小舟初ゆり月浦のうた  
 白川は雪の初ゆり小舟初ゆり月浦のうた  
 今も雪の初ゆり小舟初ゆり月浦のうた  
 とも雪の初ゆり小舟初ゆり月浦のうた

家

後柏原院

実隆

忠綱朝臣

家

来山

紀伊國志所圖會之二巻終



